

おお大勝利

平成 22 年度山東サッカー部報第 11 号 (7 月 6 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

Yリーグ 坊平グラウンド 喜 憂

7 月 3 日 (土)、4 日 (日) 上山市蔵王坊平のグリーングラウンド (天然芝 標高 1,000 m) にて、順延されていた Y リーグ 第 1 節と 10 節の一試合¹の、計 5 試合が行われました。山東は 3 日に鶴岡東と対戦。鶴東は今期 Y リーグでいまだ勝ち点ゼロと、苦しい戦いを強いられています。山東の力から考えて 1 部の試合に楽な試合はありません。鶴東の選手には高さがあるため、押し込まれてクロスボールをたくさん上げられる展開にはしたくない。ピッチは天然芝で言うことなし。ところどころ禿げた箇所が見受けられますが、芝でやれる喜びを感じずにはおれない。

キックオフ直後、山東 GK から蹴られたボールが鶴東 DF ラインの前で大きくバウンド。その目測を誤った鶴東 DF を見逃さず、すかさず DF の背後にまわった 3 年 FW 松永が鶴東ゴールを背にしたまま浮いたボールを右足アウトサイドで背後に流す「カンフーキック」。21 年度県新人準決勝の山形中央戦で 1 年多田 (当時) が決めた高等テクニックが再現！早くもネットを揺らし、山東先制。松永はテクニシャンというわけではありませんが、ゴールを嗅ぎわける嗅覚には非凡なものがある。その後も山東が気持ちよく攻めることができ、左サイドハーフで先発したゴメスこと堀込が得意の強引すぎるドリブル突破からチャンスメーカーし、松永の追加点を演出。ん～攻撃の流れは良く、得点も入り言うことないはずだが、3 年松永の決定力に頼ってばかりいるのはさびしい限り。「早く他のメンバーも決めろよ」と思いながら後半を迎える。

後半、松永以外で追加点を決めるのは誰か、などと調子に乗って考えていたら、徐々に鶴東のボールポゼッション率 (ボール保持率) が上がり始め、「楽な試合にはならないはず」と試合前自分に言い聞かせていたことを思い出させられる。冷や汗をかくシーンも出現し、試合展開は五分五分に。そんな中、疲れの見える堀込に代わり左サイドハーフで投入されたマンサクこと小松²が、ドリブル突破。スピード感はないもののリズムカルなドリブルが功を奏し、左サイドを抉ることに成功。中で松永が「出せ」と叫ぶも、そこは名門山形三中で鍛えられた強心臓の持ち主。角度のないところから自らシュート。それが見事に GK の股間

¹ 8 月 7 日に開催予定だった 10 節の羽黒一山東戦を、7 月 4 日に行いました。羽黒が沖縄インターハイに参加するため 10 節に臨めないことが前倒しの理由です。ちなみに 7 月 31 日開催予定の 9 節羽黒一新庄東戦も同様の理由により予定通りの開催は不可能なため、他の日程に移ることになります。

² マンサクというあだ名は、練習初参加時に「コマツタクデス」と自己紹介した際の音が 3 年生の大久保に「マンサクです」と聞こえたらしく、そこから付けられたもの。

を抜き、待望の3点目。試合後「狙ったのか」と聞いたところ「GKとゴールポストとの隙間を狙ったのですが・・・」と正直なコメント。マンサク君、そういうときは「狙いました」と言い張るものなんです！**結局3-0で新人チーム初勝利**。良い気分で坊平ウディロッジに宿泊することができました。

4日の相手はチャンピオンチームの羽黒。前の週にやったばかりですが、前回は雨でぬかるんだクレートコートだったので、良いコンディションでの対決は初めてといったところ。羽黒の先発メンバーからはいつもの両サイドバックの名前が欠けているものの、強豪校はバックアップメンバーもあまり変わらない力を持つ(少なくとも県レベルでは違いが目立たない)ところが凄いところ。山東は前日そして当日午前中しっかりクロスカントリーコースを走り、自分たちを追いこんで試合に臨む。もちろんこの試合に勝ちに行くことだけを考えてたら試合前のフィジカルトレーニングは厳禁でしょうが、**いろいろな意味でタフになってもらいたい**んです。試合が開始されるとすぐさま劣勢となり、ほどなくして羽黒のボランチの選手にドリブルからのミドルシュートを決められ、早すぎる失点。昨日と立場が変わり、試合開始直後の失点を経験。その後も羽黒FWの単独突破、アウトサイドで数的優位を作られての突破等々を許し、やられたい放題。立て直す暇を与えてもらいまま失点を重ねる。前の週カウンターからシュートまで持ち込むことができた攻撃も、起点を作らせてもらえず、DFライン裏のスペースも有効活用できず、零封され、**結局前半だけで0-7**。

後半も羽黒の攻撃を受け止めることができず、劣勢。ただ、羽黒がメンバーをどんどん入れ替えたのと、苦しい試合に少しずつ慣れたのとで、わずかではあるが山東の攻撃の時間を作り始める。しかし失点を食い止めることはできず、4失点。スコア0-11。無残な試合となりましたが、「この試合を通し課題を得られればいいじゃん」という選手の試合中のコメントにベンチも前向きにさせられる。「そうそう、その通りだ」とつぶやく。「何だ零封か〜」と投げやりな気持ちが芽生えてきた終盤、CK後のルーズボールを拾った2年大築が右足を振りぬく。ボールの軌道はきれいに羽黒ゴールの隅につながっていき、1点を返す。ガッツポーズとともに吐き出された**大築の野生の叫び**が坊平に響く。**最終的なスコアは1-11** (関係ありませんがゾロ目です)。試合内容からすれば順当なスコアでした。GK泰仁のビッグプレーがなければ15失点くらいはしたでしょう。

試合をしながらボールの奪い所を探していく力(前戦から奪いに行くときとラインを下げ退却するときとのメリハリ)、球際での粘り強さ(体を寄せ切る走力を含め)、アウトサイドでのディフェンスにおける連携(サイドのDFとMFとのコミュニケーション)、ボールを保持した時の落ち着き(素早い判断と動きに裏打ちされた冷静さ)、セットプレーにおけるマーキング等々、課題がたくさん見つかりました。特に羽黒と決定的に違ったのが、**ヘディングがパスになるか否か、守備におけるクリアボールがパスになるか否か**。この点で羽黒に大きく水をあけられていました。山東はまだまだボールを粗末に扱いすぎですね。体力的にベストな状態であれば、1 or 2点くらい失点は少なかったのでしょうか、羽黒との差がかなり大きなものであることは間違いありませんでした。トレーニングあるのみですね。

休みなくYリーグは続きます。次節以降も応援よろしくお願いします。

7月10日(土) Yリーグ第7節 VS 新庄東 12:00~ @山形市陸上競技場

7月19日(月) Yリーグ第8節 VS 鶴岡東 14:00~ @天童第2(人工芝)

7月31日(土) Yリーグ第9節 VS 東海大山形 10:00~ @天童第2(人工芝)

7月一杯まで現役続行宣言した3年生松永の最終戦